令和8年度文京区アカデミー推進協議会
第3回分科会(学習活動分野)概要記録

日　　時	令和8年9月18日(金)　18:30～20:14
会　　場	文京シビックセンター17階　福利健康会議室
出 席 委 員	荻野亮吾委員◎、米川清水委員、三浦武裕委員、細谷はるか委員、 那須晴吾委員、篠原秀徳委員、相澤みどり委員、中島多津子委員 （座長◎）
欠 席 委 員	滝沢克也委員
事　務　局	吉本アカデミー推進課長、奥田真砂中央図書館長、金子アカデミー文京所長 (シビックホール館長兼務)、眞野アカデミー推進係長
資　　料	次第、資料第1号　学習活動分野の施策(案)、資料第2号　文京区アカデミー推進計画の点検・評価について、資料第3号　令和7年度文京区アカデミー推進計画の点検・評価(案)
(議事) 1　議題 ○委員意見 ◆事務局説明	1．学習活動分野の施策(案)について 分科会資料第1号に基づき、学習活動分野の施策(案)について説明。 ○基本方針1～3の展開・流れは非常によい。裾野を広げるための情報発信やICT活用について、従来の手法にとどまらない具体的な工夫やアイデアを盛り込んでほしい。 ◆紙媒体、ポスター、SNSなど、情報を届けたい対象に応じた、分かりやすい発信手法に努めていきたい。 ○区独自の資格制度の活用など、学んだ成果を地域へ還元・展開する仕組みについて、具体的な施策として深めてほしい。 ○「大学との連携」や「情報の取得」などの抽象的な記述だけでなく、過去の具体例や実績などの例示を併記すると区民の理解が深まると思う。 ○もう少し具体的な取組を示せるとよい。難しいのであれば、「取組の例」という表記を「取組の方向性」に変更するなど、表現を検討してはどうか。 ◆5年間の計画期間中に事業内容が変更される可能性もあるため、具体的な事業名の明記は避けているが、表現方法等について検討したい。 ○健康維持、認知症予防、メンタルヘルスの向上など、学習活動を行う意義を記載するとよい。

	◎生涯学習の定義としては既に整理されているため、コラムのような形で意義や効果について触れるなどが考えられる。 ◆掲載の有無を含め、記載方法等については検討する。 ◎本日出された意見を事務局側で整理することとし、施策（案）を了承とする。 2. アカデミー推進計画の点検・評価について 分科会資料第2号、第3号に基づき、令和7年度文京区アカデミー推進計画の点検・評価（案）について説明。 （1）分野別基本方針① だれもが、いつでも、どこでも学べる環境づくりについて ○現計画では定量的な目標値を軸に評価してきたが、その考え方は、今後も変わらないのか。定量的なだけでなく、定性的、質的な評価も重要である。 ◆満足度や人数など、原則として毎年度確認できる数字で評価を行っている。実態調査は5年に一度のため、次期計画では、年度ごとの評価においては、各年度で把握可能な指標を設定していく考えである。 ○実績数値を見ると、この5年間の中で令和7年度は減少傾向あるいは伸び悩んでいる事業が見受けられる。5年間を総括してどのように評価しているか。講座の人数について、そうした制約を突破する工夫も必要ではないか。 ◆単に人数を増やすために事業を増やすのではなく、内容をどのように深めていくかが今後の課題であると認識している。定員の考え方やスペースの制約、ニーズに応じた適正規模について、KPIの設定を含め検討していきたい。 ○生涯学習相談の件数が減っているが、どう分析しているか。窓口開設時間等の影響はあるのか。夜間や土日の開設など、時間帯を検討する余地があるのではないか。 ◆件数減少の要因について分析する必要はあるが、一定程度ニーズが満たされている可能性や、他の情報提供チャネルへの移行も考えられる。 ◎人口減少社会を踏まえ、単なる人数目標ではなく、アンケート等の満足度など質的評価を適切に反映してほしい。相談機能については、「窓口へ行く」という強い意思を持つ人だけでなく、声を拾える柔軟な仕組みが望ましい。eラーニングやYouTubeの活用、図書館の貸出し冊数や電子書籍の普及など、単なる数値以上の質的側面を評価に盛り込むべきである。

	(2) 分野別基本方針② 学び続けるための活動の支援について ◎生涯学習フェアの実績が落ちているが、原因や改善策はあるか。 ◆令和8年度の実施に向けて昨年度の検証を行っており、内容、実施時期、開催場所などの工夫が必要か検討を進めている。 ○資格・キャリアアップ講座について、定員未達が続いている。単に講座数を増やすのではなく、受講者のニーズに合った講座が準備されているか。 ○文京区独自の資格である文の京生涯学習司、文の京地域文化インタープリター等について、PRや体系化、修了後の活動支援を強化してほしい。 ◆キャリアアップ講座は、大学と連携して開催しているが、大学側が提供したい講座と区民ニーズとの間に若干のズレがあると感じている。講座の内容は、パソコン操作などである。 ◎DXやリカレント教育など、時代のニーズに合わせた講座内容の再構築が必要である。 (3) 分野別基本方針③ 学びの循環による地域づくりについて ○学びの成果の活用に関する指標は、目標値が高すぎて達成が困難である。実態に合わせた目標設定が必要ではないか。 ◆目標値の妥当性については、今後の計画作成における検討課題としたい。 ○資格養成講座などを隔年でなく毎年開催したり、受講後のネットワーク作りや活躍の場を保証・支援したり、学びの循環を強化することが大切である。 ◆修了生には「生涯学習司の会」等を案内し、区やアカデミー文京の事業に共同で関わってもらうなど活躍の場を準備している。 ◎「文京お届け講座」の実績が前年度の倍近く増えているが、どのような内容が多く、増えた理由をどう見ているか。 ◆約70の多岐にわたるメニューがあり、区職員等が地域に出向いて区の取組を話す講座である。オンライン申請の導入が件数増加に寄与している。 ◎事業実施結果を踏まえ、分科会で出された意見を取りまとめて今年度の評価とする。
2 閉会	